

平成31年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第10号(1月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和元年12月19日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	ほぼ平年並

○1月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	予報		予報の根拠	
		1月の発生量 (平年比)	12月からの増減	12月の発生量 (平年比)	その他（気象要因など）
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)
かんきつ(温州みかん)	① かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② そうか病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	③ ハダニ類	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
かんきつ(タンカン)	① かいよう病	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
	② 黒点病	並	↓	並	平年の発生量の推移 (↓)
	③ そうか病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	④ ハダニ類	並	↓	やや多	平年の発生量の推移 (↓)
マンゴー	① ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○1月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	予報		予報の根拠	
		1月の発生量 (平年比)	12月からの増 減	12月の発生量 (平年比)	その他（気象要因など）
キャベツ	① 菌核病	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
	② 黒腐病	並	↘	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↘）
	③ コナガ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）
	④ ウワバ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
レタス	① 軟腐病	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
	② 腐敗病	並	→	(発生なし)並	平年の発生量の推移（→）
	③ 菌核病	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
	④ アブラムシ類	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
かぼちゃ	① モザイク病	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
	② うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ アブラムシ類	並	↘	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↘）
	④ ハモグリバエ類	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
	⑤ タバココナジラミ	並～やや少	↘	やや少	今後1か月の気温が平年より高い見込み
ゴーヤー（施設）	① モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス)	並	↗	(発生なし)並	例年の発生量の推移（↗） 媒介虫(アザミウマ類)の発生量が平年並
	② モザイク病(スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)	並	→	(発生なし)並	平年の発生量の推移（→） 媒介虫(アブラムシ類)の発生量が平年よりやや多い
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
	④ アブラムシ類	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘） 今後1か月の気温が平年より高い見込み



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○1月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	予報		予報の根拠	
		1月の発生量 (平年比)	12月からの増減	12月の発生量 (平年比)	その他（気象要因など）
（ピーマン 施設）	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
トマト （施設）	① 黄化葉巻病	並	↗	（発生なし）並	平年の発生量の推移（↗）
	② うどんこ病	並	↗	（発生なし）並	平年の発生量の推移（↗）
	③ すずかび病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
さいいんげん （平瀬）	① 菌核病	並	→	（発生なし）並	平年の発生量の推移（→）
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	（発生なし）並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ハダニ類	並	↗	（発生なし）並	平年の発生量の推移（↗） 今後1か月の気温が平年より高い見込み
小ギク （年末出荷用）	① 黒斑・褐斑病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② アザミウマ類	やや多	↗	やや多	今後1か月の気温が平年より高い見込み
	③ アブラムシ類	並～やや多	↗	並	平年の発生量の推移（→） 今後1か月の気温が平年より高い見込み
	④ チョウ目幼虫	並	→	（発生なし）並	平年の発生量の推移（→）
	⑤ ハダニ類	並	↗	（発生なし）並	平年の発生量の推移（↗）

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	12月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。定植時に散布した粒剤の効果が切れ始める時期でもあるため、農薬散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。
かぼちゃ	細菌病	ほ場周辺にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

平成31年度 宮古群島 病害虫発生予報 第10号(1月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和元年12月19日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並が多い	ほぼ平年並

○1月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	予報		予報の根拠	
		1月の発生量 (平年比)	12月からの増減	12月の発生量 (平年比)	その他（気象要因など）
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	やや多	↗	やや多	芯枯茎率の平年の発生量の推移（↗）
	③ メイチュウ類 (イネヨトウ)	やや多	↗	やや多	芯枯茎率の平年の発生量の推移（↗）
マンゴー	① ハダニ類	並～やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
かぼちゃ（10月植え）	① モザイク病	-	-	(発生なし)並	
	② うどんこ病	-	-	並	
	③ 細菌病	-	-	多	
	④ アブラムシ類	-	-	多	
	⑤ ハモグリバエ類	-	-	(発生なし)やや少	
	⑥ タバココナジラミ	-	-	並	
とうがん	① うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	② ミナミキイロアザミウマ	多	↗	多	平年の葉の発生量の推移（↗）
	③ ハモグリバエ類	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
	④ タバココナジラミ	並	→	(発生なし)並	平年の発生量の推移（→）
	⑤ ハダニ類	並	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○1月の発生予報つき (宮古群島)

作物	病害虫名	予報		予報の根拠	
		1月の発生量 (平年比)	12月からの増 減	12月の発生量 (平年比)	その他(気象要因など)
ゴー ヤー (施 設)	① うどんこ病	並~やや多	→	やや多	平年の発生量の推移(→)
	② 斑点病	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移(↗)
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	→	(発生なし)並	平年のつる先の発生量の推移(→)
	④ タバココナジラミ	並	→	(発生なし)並	平年の発生量の推移(→)
	⑥ アブラムシ類	並	→	(発生なし)並	平年の発生量の推移(→)

○その他注意すべき病害虫(宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	12月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。定植時に散布した粒剤の効果が切れ始める時期でもあるため、農薬散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。

●平年値：過去5~10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

平成31年度 八重山群島 病害虫発生予報 第10号(1月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和元年12月19日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	平年並か多い	ほぼ平年並

○1月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名	予報		予報の根拠	
		1月の発生量 (平年比)	12月からの増減	12月の発生量 (平年比)	その他（気象要因など）
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	やや多	→	やや多	芯枯茎率の平年の発生量の推移（→） 今後1か月の気温が平年より高い見込み
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	やや多	→	やや多	芯枯茎率の平年の発生量の推移（→） 今後1か月の気温が平年より高い見込み
ゴマ	① ハダニ類	並	→	(発生なし)並	平年の発生量の推移（→）
ゴーヤー（施設）	① うどんこ病	並	↗	やや少	平年の発生量の推移（↗）
	② 斑点病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	→	(発生なし)並	平年の発生量の推移（→）
	④ タバココナジラミ	並	→	(発生なし)並	平年の発生量の推移（→）
	⑤ アブラムシ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
かぼちゃ	① モザイク病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	② うどんこ病	並	↗	(発生なし)並	平年の発生量の推移（↗）
	③ 細菌病	並～やや少	↗	やや少	今後1か月の降水量が平年並か平年より多い見込み
	④ アブラムシ類	並	→	並	有翅虫の平年の発生量の推移（→）
	⑤ ハモグリバエ類	並	→	やや少	平年の発生量の推移（↘）
	⑥ タバココナジラミ	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	12月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されている。定植時に散布した粒剤の効果が切れ始める時期でもあるため、農薬散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾期から感染が確認されているので、登録農薬によるスケジュール散布を行う。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

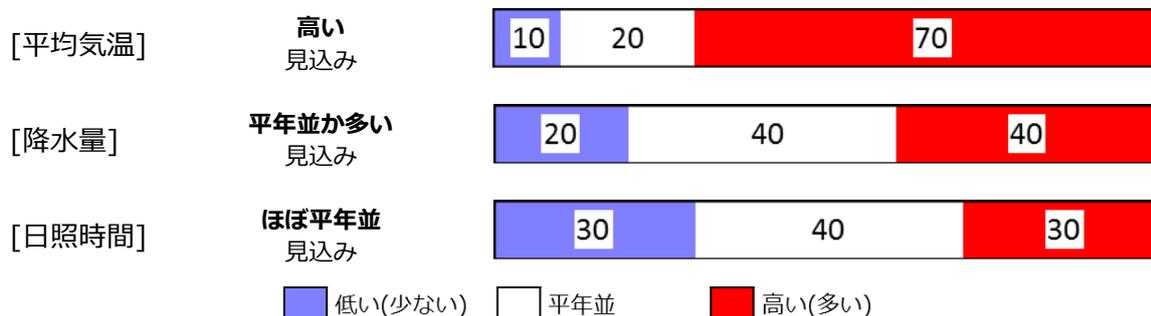
向こう1か月の天候の見通し
沖縄地方（12月21日～1月20日）

- 気象予報のポイント
 - 向こう1か月の天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
 - 寒気の影響が弱いため、向こう1か月の平均気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
 - 向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

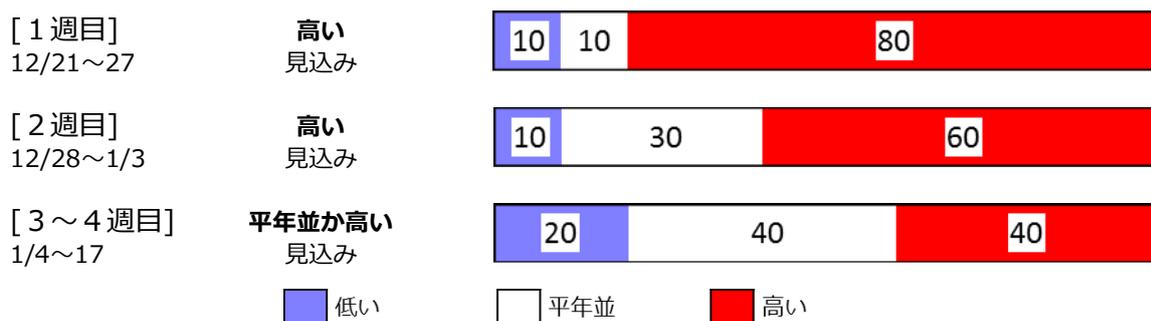


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.4～+0.5℃	平年比：80～115%	平年比：87～109%
那覇	17.1～18.1℃	86.9～125.7mm	79.7～99.3時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.6～+0.7℃	平年差：-0.6～+0.8℃	平年差：-0.7～+0.6℃
那覇	17.4～18.6℃	17.1～18.4℃	16.5～17.8℃

- ※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の5地点平均値です。
- ※ 平年並の範囲は、過去30年間（1981～2010年）の値から統計的に求めています。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

本 所 〒902-0072 那覇市字真地123
TEL 098-886-3880 FAX 098-884-9119

宮古駐在 〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内)
TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474

八重山駐在 〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内)
TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157